

令和6年度 学校マネジメントシート

学校名（ 三重県立特別支援学校東紀州くろしお学園 ）

I 目指す姿

(1)目指す学校の姿		児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出し 元気いっぱい、笑顔いっぱい、光いっぱいの『くろしお学園』をつくる。 ※元気とは、健康や体力を、笑顔は感性や情操を、光は個性や特性を意味する。
(2)	育みたい資質・能力（育みたい生徒の姿）	・紀南地域の関係機関・団体と協働し学習をすすめている。 ・紀南地域の小・中・高校等との交流を盛んに行っている。 ・自らの持てる可能性を伸ばそうと努力している。 ・学校における学習活動等に積極的に取り組み、経験・体験を積み重ねている。
	ありたい教職員の姿	・特別支援学校に勤務する教職員として、児童・生徒の障がいに基づいた誠実な支援により児童・生徒及び保護者関係者からの信頼に応えられるよう、人権を重んじた真摯な態度で教育活動に臨んでいる。 ・紀南地域等の企業・関係機関・団体と協働し、児童・生徒の卒業後の進路保障に積極的に取り組んでいる。 ・紀南地域の小・中・高校等との交流が円滑に進むよう積極的に取り組んでいる。 ・特別支援教育のセンター的役割を果たすため、地域の学校等へ専門的なアドバイスをを行うとともに、自己研鑽を重ね専門性を高めている。 ・教育環境をソフト、ハード面で整備し、児童・生徒が安全・安心して学校生活を送ることができるよう積極的に取り組んでいる。 ・ワークライフバランスを意識し、働き方の見直しと時間外勤務の削減に取り組んでいる。

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<児童・生徒> ・健康で笑顔で、安心して学べること ・可能性を伸ばし、社会的に自立すること <保護者> ・児童・生徒が、健康で笑顔で、安全に学べること ・児童・生徒の進路が保障されること <紀南地域の障がい児を持つ保護者> ・施設見学等の情報提供の機会があること ・教育相談の機会があること <紀南地域の教職員> ・特別支援教育の研修が実施され、専門的知識が提供されること ・特別支援教育に関する相談の機関であること
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	<保護者> ・有意義な学校生活と進路保障 <福祉・医療機関> ・連携強化と情報共有 <地域の公立学校等> ・研修と専門的知識の提供、教育相談 <紀南地区の企業等> ・就労に向けた連携 <金山地区> ・諸行事等へ参加し、認知度を高める
	連携する相手への要望・期待	<保護者> ・教育活動への理解、支援と参画 <福祉・医療機関> ・社会参加、自立に向けた相談の充実 <地域の公立学校等> ・人事交流と本校への理解、協力 <紀南地区の企業等> ・本校への理解、協力 <金山地区> ・本校への更なる理解、交流

(3)前年度の学校関係者評価など		・ マネジメントシートを見させて頂いて、さまざまなことをやってもらっているが、ぜひ数値目標を入れてほしい。 ・ 例えば、「コンプライアンスミーティングを何回やった」ではなく「その結果、どうなったのか」が知りたい。数値化するのが難しいのであれば、文章でもよいので、教員の素直な気持ちが知りたい。 ・ 私の施設に実習生としてくろしお学園の生徒が来ている。いろいろな取り組みをしていただいて、本当に頭が下がる思いである。1年委員をさせて頂いたが、何をマネジメントしていいのかわからなかった。大変失礼だが、先生方が疲れているように見える。いろいろやっていただいているが、疲れているように見えるのはあまり良くないと思う。 ・ 小学部から高等部まであるので、小さいころに見ていた子が高等部になって、感慨深いものがある。1年1年ちょっとずつだが、継続した支援で成長しているのがよくわかる。 ・ 以前と比べてPDCAサイクルで教育活動を行うことが増えたと思う。働き方改革については、金山小学校より会議時間など良い数値がある。熱心に対応されているが、健康に留意しながらがんばってほしい。
(4)現状と課題	教育活動	<交流学习の充実> ・ 学校がある金山地区との交流を進めていく必要がある。金山区長にも学校関係者評価委員会に参加していただき、地域の活動状況を把握するとともに、どのような形で参加していくかを検討する。 ・ 同じ地域で暮らす仲間として近隣の学校とは積極的に交流活動を続けていく必要がある。 <ICT教育の充実> ・ 臨時休校となっても、オンラインで平常時と変わらない教育活動を続けることができるように準備する。 ・ 高等部では一人一台端末(iPad)を整備しており、日常的にICTを利用して授業が行えるようにする。教育効果を高めるためには、どのような形で使えばよいのかを検討し、校内で情報を共有する。
	学校運営等	<研修機会の充実> ・ 多様な児童生徒に対応するために、常に新しい知識を身につける必要がある。外部講師などを活用して、研修を進める必要がある。 ・ 新規採用教諭や臨時的任用講師が多いので、特別支援教育に関する基本的な知識を身につける研修に取り組む。 <職場環境の整備> ・ 時間外労働時間は減少傾向にあるが、さらなる取り組みが必要である。効率的な業務の進め方などの情報を共有したり、職員アンケートの結果などを元にして、職場環境の見直しを進める。

3 中長期的な重点目標

教育活動	<学習指導の充実> ・ 児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、「個別の教育支援計画」等を策定する。 ・ 児童生徒の自主的な活動を促進することにより、日々の生活を豊かに生きる力を育てる。 <キャリア教育の充実> ・ 児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援する。 ・ 小学部、中学部及び高等部の特性を生かし、学部間の連携を深め、一貫性のある教育を進める。 <安全で安心な学び場づくり> ・ いじめや暴力のない学校づくりに取り組む。 ・ 防災教育、防災対策の推進に努める。
------	--

学校運営等	<保護者・地域住民等との連携> ・地域の保育園・幼稚園・小学校・中学校・高校や福祉関係施設、行政機関等との連携を強める。 ・地域における特別支援教育を推進するために、特別支援学校のセンター的機能による支援の充実に取り組む。 <資質向上の取組> ・教職員一人ひとりが、特別支援教育に関する幅広い知識の習得に努める。 ・新しい時代の教育に対応できるよう研鑽と修養に積極的に取り組む。 <働きやすい職場環境づくり> ・業務の精選や分担等の見直しを図り、総勤務時間の縮減に取り組む。
-------	--

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

【備考欄について】 「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導の充実	<小学部> ・児童一人ひとりの成長に合わせた、きめ細やかな授業を行う。 【成果指標】 ・個別の指導計画（国語・算数）の目標達成率を80%以上とし、一人ひとりのニーズに合った授業となっているかを振り返る。 <中学部> - 授業改善を図り、生徒の学びを深めるとともに、教員のICT活用指導力の向上を狙う。 【活動指標】 ・学部内で授業研究を実施し、1人1回提案授業を行う。事後検討会を設け、内容を毎回全学部周知する。 ・提案授業者は、一定期間内に他学部の授業見学もしくは他学部の授業の動画を撮影して視聴し、自身の研鑽の機会とする。 ・全学部告知して参観を募り、授業改善のためのご意見をいただく。 ・参観者のアンケートにおいて、「ICTの活用が効果的だった」という旨の好評価を、70%以上得る。 ・年2回実施する本校の公開授業において、保護者の参観の際にアンケートを取り、「生徒の変容について成果があると実感する」という旨の意見を3分の2以上得る。 <高等部> ・iPadやパソコンを活用して調べ学習を行い発表することができるよう支援を行う。 ・視覚支援としてICT機器を積極的に用いる。 【活動指標】 ・週3回以上、授業で活用する。 <教務・情報部（教務）> ・個別の目標と評価が児童生徒にとって、具体的で実態に応じたものになっているかを確認しながら、PDCAサイクルを促し、一人一人の可能性を引き出す。 【活動指標】 ・個別の指導計画の目標設定と実践、評価についての研	(年度末および適宜記載)	◎ ◎ ◎ ◎

	修を年1回以上実施する。PDCAサイクルが効果的に機能しているかの検討会を年4回実施する。 <教務・情報部（情報）> ・日常的にICT機器を活用した授業を実施し、社会生活に必要な技能を習得できるよう支援する。 【活動指標】 ・ICT機器を活用した授業を、全体の60%以上とする。 ・年度末に授業担当より聞き取りを行い、ICT活用率を算出して、校内で共有する。 <研修・人権教育部（人権）> ・小、中学部の居住地校交流、各学部为学校間交流を推進する。 【活動指標】・各学部、年1回以上の学校間交流を行う。 <保健部（保健指導）> ・児童生徒一人ひとりの障がいの状態や発達段階の把握に基づき、保健指導の目標及び指導内容を明確にする。 ・歯・口腔の健康づくりの実践を通して、生活の自立へつなげる。 ・児童生徒の発達段階、身体的成熟や精神的発達に合わせて、性教育をおこない、社会生活への適応を図る。必要に応じて家庭との連携・協力体制をとる。 【活動指標】 ・各学部、年に1回実施する。 ・児童生徒が歯みがき、手洗いなど健康的な生活の習慣を身につける。		◎
キャリア教育の充実	<中学部> ・中学部卒業後の生活が円滑になるよう、高等部と授業の連携を図る。 【活動指標】 ・美術、体育、職業課程の教科において、高等部の活動に参加する。円滑な連携や効果的な連携ができるよう、主事会で適宜運用について図る。 <高等部> ・卒業後の生活に向け、生徒の特性・実態を的確につかみ、必要最小限の支援を展開する。 ・社会生活を営むための技能や自立心を身に付けさせる。 【活動指標】 ・毎回学部会で情報共有を行い支援策を検討し実践に反映させる。 ・授業や活動内容の構造化を図る（10教科以上） <総務部> ・在校生と卒業生の交流を行い、在校生が卒業後の進路や生活にイメージを抱くことのできる機会を作る。 【活動指標】 ・年間2回、在校生と卒業生が共に参加できる行事を、PTA・同窓会合同で行う。 <研修・人権教育部（研修）> ・本校のキャリア教育プログラムについて改定を行い、各学部の授業への活用に取り組む。		◎ ◎ ◎ ※ ※

	<支援部（進路支援）> ・すべての生徒の進路保障に取り組み、各学部と連携して進路支援を行う。 【活動目標】 ・一般事業所対象の学校見学会を開催し、ここ５年間で本校生徒の就労受け入れ実績のない事業所を、５事業所以上招く。 ・本校高等部生徒および中学部生徒を対象に、年３回以上進路学習を行う。 ・保護者を対象に、年１回進路説明会を行う。 <保健部（食育指導）> ・給食を生きた教材として活用する。 ・児童生徒と関わりの深い事業所等の食材を積極的に使用し、地域の方に見守られながら成長していることを、給食を通して伝える。 ・様々な献立を給食に取り入れ、児童生徒の「食経験」を増やして、食に対する知的好奇心や興味関心を高める。 ・地域の農畜産物生産者と連携・協力し、出前授業等を通して交流することで児童生徒の地域社会への参画に繋げる。 【成果指標】 ・児童生徒に関わりのある納入業者を利用する。 ・日常の給食時間の児童生徒の変化（食べられるものが増えた・食するときの姿勢等） ・出前授業の事後指導アンケートで、「〇〇さんのおはなしを よく聞くことができた」等で「はい」と答える児童生徒が ８０％以上		◎ ※ ◎ ※
安全で安心な学び場づくり	<生活指導部> ・いじめのない学校づくりをすすめるために、全校集会の中に、「命の大切さ」「仲間づくり」を意識した活動内容を取り入れる。 【活動指標】 ・年２回、いじめ・体罰アンケートを実施し、いじめや体罰の早期発見早期対応に繋げる。 ・全校集会では、児童生徒が「命の大切さ」を学ぶことができる教材を使用する。 <保健部（健康診断）> ・健康診断を実施する前に、児童生徒の障がいの状態や発達段階の的確な把握に基づいた事前指導等をおこない、児童生徒が主体的に健康診断に臨めるようにする。 【成果指標】 ・教職員に実施方法についてのアンケートをおこない、満足度８０％以上とする。 <保健部（避難訓練）> ・児童生徒が災害時に安全に避難できるよう、避難訓練の事前指導・事後指導を行う。 【成果指標】 ・事後指導アンケートの「先生の話聞いて行動できたか」「『おはしもち』を守ることができたか」の項目について「はい」と答えた児童生徒が８０％以上とする。		◎ ◎ ◎

改善課題
(年度末に記載)

(2) 学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
保護者・地域住民等との連携	<中学部> - 作業学習の成果を地域に発信し、地域とのつながりを深めたり、本校の活動の理解を広めたりする。 【活動指標】 - 近隣の小学校、中学部3年生の出身小学校3校および通園めだか、熊野市と御浜町と紀宝町の図書館に作業作品を配布する。 - 文化祭にて保護者・地域の方々に向けて作業作品を販売、もしくは配布する。 <高等部> - 生徒が校内外の行事や交流活動に参加を積極的に参加する 【活動指標】 - 地域行事や地域への活動へ5回以上参加する。 - 授業で制作した物品や成果物を地域へ3回以上配布する。 <総務部> - 夏にPTA行事（夕涼み会）を実施し、保護者と共に児童生徒の実態に合った内容の企画・運営を行う。 【成果指標】 - 在校生・同窓生及び保護者の参加者数が90人以上。 - 実施後の保護者・教職員アンケートの、運営及び内容の項目で「適切であった」の選択率90%以上。	(年度末および適宜記載)	※ ※ ◎
資質向上の取り組み	<教務・情報部（教務）> - 教育課程が、学校として一貫性をもったものとなるよう検討し、学校の実態に応じて次年度の教育課程を編成する。 【活動指標】 - 高等部において職業の内容を充実させる。 - 全学部において児童生徒の発達段階に合わせた学習指導を展開し、一貫性のある教育課程となるよう学部間の連携を図っていく。 <教務・情報部（情報）> - ICT機器を活用した授業を展開できるよう全体研修やグループ研修の機会を設定する。 - 情報に関するセルフチェックを定期的の実施し、個人情報の管理を徹底する。 【活動指標】 - GIGAスクールサポーターと連携し、ICT機器をスムーズに活用できるよう教員向けの研修を実施する。 - 個人情報等の管理についての規定を設け、教員に周知する。 <生活指導部> - 不審者侵入時対応や児童生徒失踪時対応についての		※ ◎ ◎ ◎

	訓練や講話を実施し、緊急時に教職員が迅速な対応を取ることができるよう校内体制を整える。 【活動指標】 ・教職員が専門的知識や技能を学ぶために、警察署に訓練や講話の講師を依頼する。 <研修・人権教育部（研修）> 1. 転入職員対象の研修会を実施する。 2. 教職員による「授業研究」を行い、授業の実践力を高める。 3. 教職員対象の研修会を実施する。 4. 外部講師招聘事業を活用し、教員の指導力を高める。 5. 公開研修会を実施する。 【活動指標】 1. 転入職員対象の研修会は、年2回、実施する。 2. 学期に1回実施する。 3. 年2～3回実施する。 4. 学期に1回実施する。 5. 年1～2回実施する。 <保健部（研修）> ・救命救急法研修会を実施する。 ・食物アレルギー、てんかん発作、嘔吐処理についての校内研修を実施し、児童生徒の緊急時に教職員が迅速な対応をとれるような校内体制をつくる。 ・災害時や緊急時に適切な対応がとれるような校内体制をつくる。 【活動指標】 ・教職員参加率90%以上とする。 【成果指標】 ・職員アンケートで満足度80%以上とする。 <支援部（地域支援）> ・特別支援教育に係る教職員の専門的知識と支援の向上に努める。 【活動指標】 ・夏季休業中に特別支援教育に関する公開講座を開催する。 ・本校教員を対象とした特別支援教育に関する校内研修会を開催する ・地域支援活動によって得た、関係機関の研修や障がい者支援、特別支援教育についての情報を校内に環流する ・より効果的な教材や指導書を紹介する		※ ◎ ◎ ※ ※ ※ ◎ ◎ ◎
働きやすい職場環境づくり	<小学部> ・個別学習にワークシステムを採用し、年休を取得しやすい環境を整える。 【成果指標】 ・年休の取得率80%以上を目標とする。 <研修・人権教育部（研修）> ・人権・同和教育に関する研修会を実施する。 【活動指標】 ・年1回以上、実施する。		◎ ◎

	<学校全体> ・教職員が、健康で意欲的に教育活動に取り組むとともに、コンプライアンスを意識して業務を遂行する職場環境を整備する。 【活動指標】 ・定時退校日を月1回設定する。 ・会議の所要時間45分以内を遵守する。 ・月45時間を超える時間外労働をなくす。年間の時間外労働時間を360時間以内とする。 ・年間1人あたりの休暇取得日数を昨年度より増加させる。 ・コンプライアンスミーティングを実施する。 【成果指標】 ・定時退校できた職員の割合85%以上。 ・時間内の会議の割合80%以上。 ・1人当たりの月平均時間外労働20時間以内 ・月45時間を超える時間外労働者数 年360時間を超える時間外労働者数、ともに0人 ・1人当たりの年間休暇取得日数16日以上 ・コンプライアンスミーティングを年3回実施。		◎
情報提供による信頼の構築	<総務部> ・ホームページによる情報提供を行う。 【活動指標】 ・ホームページの更新を月1回以上行う。 ・ホームページ上の3年以上前の古い情報を削除し、新しい情報に更新する。 <学校全体> ・本校の教育活動への理解を深めるために、報道機関への資料提供を行い、情報を積極的に配信する。 【活動指標】 ・年間5回以上資料提供を行う。		※
改善課題			
(年度末に記載)			

5 学校関係者評価

明らかにした改善課題と次への取組方向	(年度末に記載)
--------------------	----------

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	(年度末に記載)
学校運営についての改善策	(年度末に記載)